

Special Interview

スタッフの生の声を聞くインタビューコーナー。
どのような経験を経て今に至り、
現在、どのような思いを持っているのかを聞いてみました。

音楽人生から 第2の人生へ



デザイナー・絵画教室講師

山本 有彩

YAMAMOTO ARISA

横浜出身のグラフィックデザイナー。株式会社サウンドデザインにて、現在は月刊の通販冊子のデザインを中心に活躍している。傍ら、WEB制作や社外報「千と希の設計図」を作成している。洗足学園音楽大学卒業。トロンボーン・ピアノ奏者。

プロを目指した10代

編：今日はよろしくお願ひします。
山本：よろしくお願ひします。
編：山本さんはデザイナーとしては少し変わった経験をお持ちです。ここに至る経緯を教えてくださいませんか？
山本：はい、まず出身は横浜市です。4歳からエレキトーンを始めまして、それが音楽との出会いでした。中学校では吹奏楽部に入り、トロンボーンを担当したのですが、その楽器にハマり、中3のころにはプロの奏者になろうと思いました。音大の進学方法を探り、高校1年生からは受験のためにピアノを始め、トロンボーンのために就きました。
編：普通科の高校でしたか？
山本：はいそうです。最初は東京芸大を受験し、1年間浪人したのですが、結局第二志望の洗足学園音楽大学に行くことになりました。1年目は…そうですね、併願は考えなかったです。「1年くらい浪人してもいいかな」と思い、ひとつに絞って没頭した1年でした。
編：第一志望が叶わなかったことは残念でしたね。
山本：確かに第一志望の学校は一番プロに近い場所のような気がしたのですが、洗足は規模が多く、カリキュラムが豊富で、す

「いい先生がたくさんいらっしゃったので、第二志望とはいえ、納得のいく結果でした。」

大学での転機

山本：大学生生活は楽しかったです。やっぱりみんなの意識が高く、それは中高とは全く違いました。クラシックだけでない他のジャンルの音楽に触れるなど、いろんな経験ができたので楽しかったです。本当に音楽漬けの日々の中で、人生で最も尊敬する恩師や素晴らしい仲間との出会いがありました。私もここでプロの演奏者としてスキルを磨こうと意気揚々としていました。

ところが、4年生の夏、局所性ジストニア(自分の意思に反して口の筋肉が硬直してしまう症状)になってしまい、楽器が思うように演奏できず、プロの演奏家の道を断念しました。12月に大きな試験があったのですが、その冬の試験を終えたあたりで「完全には回復しない」とことを実感しました。プロとしては厳しいかな、と。今も楽器の演奏は続けてはいますが、以前ほどのレベルでは演奏できていません。リハビリ中というか…そこから就職しようと思いましたが、音楽の出版社に入りました。
編：大きな方向転換でしたね。
山本：なんか吹っ切れたというか、次の進路が決まって、その仕事も音楽関係だったので、リハビリしつつ、新しい生活に移ろう、という前向きな感覚でした。

ちなみに音大の卒業生というのは、演奏家以外の仕事に「就くこと」を「就職」と呼んでいます。しかしそういう意味での就職に進む人は私の学年で数名でした。就活しているのが珍しいというか…いきなり楽団に入れちゃう人は「就職」と呼べますが、そういう人は極わずか、最初はフリーランスでいろんなところで演奏したり、レッスンをしたりして生計を立て、修行を積むのがほとんどです。

「これを一生やるのは つらいな」と思った

編：音楽出版社ではどんなお仕事を？
山本：私は物流の管理、在庫の管理、請求書の管理、Webの管理、社内PCの保守などをやっていました。イラストレーターやフォトショップの使用経験があったので、今まで外注していたバナーやアイコンの作成を社内ですべてやらせてもらえることになりました。ただ、最初は音楽業界にいる、というだけで嬉しかったのですが、PCの保守などはそもそも苦手な分野でして、これを一生やるのは辛いな、と思えました。もっと自分のびのびができることで会社に貢献したいと思うようになったのです。
編：転職を希望したのですか？
山本：本格的に転職を考えたのは去年の秋くらいからかな…そこで専門学校のデジタルハリウッドに通いました。今も通っています。
編：専門学校の授業はどうでしたか？
山本：デザイナーの考え方や基礎的な部分を学べて良かったです。私の選択したのは短期コースなので、2ヶ月のグラフィック、6ヶ月のWebデザイン、という感じ

編：デザイン系ソフトの経験があったとおっしゃいましたが？

山本：学生時代、(演奏会の)チケットやチラシなどを作る機会がありました。父の助言をもらいつつ作ったものがみんなに喜んでもらえたのが嬉しかったことがありました。それからデザインすることそのものの面白さ、そしてデザインで人の役に立つことができることを知り、非常に魅力を感じていました。実際、音楽に没頭していた学生時代でしたが、前から絵も好きで、父もデザイナーだったので、専門的に学んでほしいものの、デザインという分野はいつも自分の近い場所にあったように思います。

グラフィック デザイナーという道

編：実際に仕事をしてどうですか？
山本：今はとにかくデザイン制作のいろいろなことに携わり、制作において自分のできること、やりたいことを見つけていきたいです。もっともっと成長したい、学生の音楽をやっていたとき以来に成長したい気持ちがあります。
編：思い描いていた仕事とのギャップはありましたか？
山本：自分で自由に作るだけでなく、お客さまの目指すものに近づけないといけないんだな、というのを感じました。
編：絵画教室は新しい挑戦でした？
山本：はい。今まで中学生くらいの子に教えたことはあったものの、子供に接するのはとまどいがあった、最初はどう接したらいいのかわからなかったのですが、最近はずせを感じますね(笑)。子供って純粋だなあって思って。大人みたいに細かいことを考えずに描けるのがいいな、と思っています。
編：今後はどういう自分になりたいですか？
山本：お客さんの想像を超えるような良いデザインができるようになりたいです。驚かせるくらいのこと…

自分の進んだ道が 自分にとって正しい道

編：進路に悩む人に助言はありますか？
山本：視野を広く持って、一個ダメだったとしても、新しい目標を見つけたらいいよ、ということでしょうか。こちがうまくいかなかったら、別の道が正解なのかな、って努力が報われる、とは言えませんが…進んだ方が正しい道だと思おうようにしています。自分を信じているというか。
また、好きなことは諦めないで、ずっと続けて欲しいな、と思います。失敗を恐れずに。
編：失敗を恐れないためにはどうすれば？
山本：自信をつけること。そのためには練習や勉強が大事だと思います。
編：ありがとございます。